

感染対策ミニちしき Vol.5

テーマ「食中毒」

じめじめした季節ですね。夏休みの声が聞こえ始める頃になりました。
年中あるのですが、この時期は特に聞かれる『食中毒』についてのお話です。



食中毒には、食べ物の中で細菌が増え、細菌や細菌が出す毒素を体内に取り込んで発症してしまう場合と、日本周辺に回遊している魚を食べることにより、魚の中に潜んでいるアニサキスに対して体がアレルギー反応を起こしてしまう場合があります。各々の予防方法を一部ご紹介します。

細菌又はウイルスによる場合

- ① 購入した食品はしっかり管理しよう
(保冷剤の使用する、速やかに冷蔵庫へ保管する、消費期限を守る)
- ② 下準備で使用するキッチン用品は清潔に保とう
- ③ 手洗いをきちんとしよう
- ④ 味が変?と感じたらすぐに廃棄しよう
(細菌は一定時間の加熱で死滅しますが、毒素は消えません)
- ⑤ 焼肉する場合、焼き用と食べる用で箸を変えよう

アニサキスによる場合

- ① 加熱する (60°Cで1分／70°C以上で瞬時に死滅)
- ② 冷凍する (-20°Cで24時間以上冷凍すると感染性が失われる)

※一度アニサキスによる食中毒を起こしたことがある人は、二度目はアレルギー反応で重症化する可能性が高い為、できる限り上記の対策を実施しましょう。



IMSグループからのお知らせ

医療・介護のことでお悩みはありませんか?

IMSグループIMS総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けします。詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ【メールフォーム】よりお問い合わせください。

FREE 0800-800-1632

03-3989-1141 (代表)

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。

IMS総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧いただけます。
<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

アクセスマップ



- 改札を出たら東口(左側)へ進みます。
- 階段を降りて駅を出ます。
- 駅を出ると左斜め前方に「横浜銀行」が見えます。
- 「横浜銀行」の前の交差点をわたり、坂を登ります。
進行方向右側はデパートです。
- 坂の先の交差点を左に曲がります。
「岩崎学院」という専門学校が目印です。
- 交差点を曲がって30m程で到着です。
コンビニの向かい側当院です。

IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会
東戸塚記念病院

Vol.05 2017年07月発行 (第000005号) 制作・発行 東戸塚記念病院 広報委員(先崎) / 本誌掲載記事・写真等、無断転載禁止

〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町548-7
TEL 045-825-2111 FAX 045-824-8817
<http://www.higashi-totsuka.com/>

IMSグループ 広報誌 プラザイムス

PLAZAIMS

医療法人財団 明理会 東戸塚記念病院

2017.07月夏号
VOLUME. 05

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報を伝えするコミュニケーションペーパーです。

うつき
さとし
宇津木 聰

【専門医認定・資格】

北里大学脳神経外科講師

日本脳神経外科学会 専門医

日本脳卒中学会 専門医

日本認知症学会 専門医

日本神経内視鏡学会 技術認定医

身体障害者福祉法指定医(音声言語機能障害、肢体不自由)



脳神経外科科長挨拶

脳神経外科科長の宇津木聰と申します。東戸塚記念病院に赴任し6年目になります。脳神経外科は現在私を含め常勤専門医2名と非常勤専門医3名にて日々の外来、当直業務を行っております。特に脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などのいわゆる脳卒中は少しでも早い治療を要する為、当院では24時間365日脳神経外科専門医が診察できるような体制を整えています。脳梗塞というのは、脳に栄養を送る血管に血の塊ができる血管をつまらせるによって引き起こされます。この血の塊はつまってから4.5時間以上経過すると脳梗塞の範囲が徐々に広がっていき、寝たきりの状態にまで悪化してしまうことがありますが、4.5時間以内であれば薬を使って溶かすことができます。脳出血も同様に、早い処置を行って出血を抑えることで、後遺症を少なく治すことが可能となります。つまり、脳梗塞も脳出血も症状が軽いうちの早期発見、早期治療が大切です。当院では1年間に200人を超す脳卒中の患者様の治療を行っております。当院でリハビリを行ない歩いて帰られる患者様もいらっしゃいますが、長期のリハビリが必要と考えられる患者様にはリハビリ病院への転院など、患者様の状態に合わせた退院支援を行っております。地域住民の方々に、「万が一脳卒中になっても東戸塚記念病院が近くにあるから大丈夫」と思っていただけるような地域に根差した医療を提供すべく、これからも惜しみない努力を続けていきます。

新任常勤医師紹介



郷内 志朗



松岡 朋之



國枝 裕介

この度、4月から働かせていただく事になりました。主に救急車で搬送されてくる患者さんを診療させていただきます。入院される方も、外来での治療によりご帰宅できた方も、患者さんやご家族にも、東戸塚記念病院の救急外来に運ばれてよかったですと思っていただける様な救急診療を行いたいと考えております。よろしくお願いします。

放射線科のご紹介



放射線科は、常勤医師1名、放射線技師16名で構成されています。放射線技師は、体の外からは見えない骨や内臓などの診断を補助するための画像を作ることが仕事です。主に放射線を使った装置で検査を行います。

当院放射線科の設備紹介

▶一般撮影装置

X線を用いて胸部、腹部、全身の骨や関節などの撮影を行っています。(一般的にレントゲンと呼ばれます)

▶MRI(磁気共鳴画像)検査装置

放射線を使わず、強力な磁石と電波によって高分解能な断面像を得られます。

▶術中X線透視装置

手術で体の中に入れる器具を正確に設置するために、透視を行います。

▶X線骨密度測定装置

X線を使って骨の強度を調べます。この装置がリニューアルされ、以前より短い時間で検査を行えるようになりました。

▶CT(コンピュータ断層撮影)検査装置

64列のマルチヘリカルスキャンで、広範囲で高速撮影を行います。コンピュータ処理を行い、血管や骨などの3D画像も作成できます。

▶X線透視装置

X線を連続で照射しながら、リアルタイムで動きのあるものを観察できます。バリウムの検査やその他造影剤を使った検査などをおこないます。

▶血管撮影装置

血管撮影では、腕や脚の付け根からカテーテルと呼ばれる細くて長い管を入れ、目的とする血管近くまで運び、そこから造影剤を注入して血管の状態や流れを調べます。

これらの装置を使い、最良の医療画像を提供と共に医療被ばくの低減に努めています。

医療福祉相談室のご紹介

医療福祉相談室では、社会福祉士の資格を持った相談員が外来から入院の患者様・ご家族様の社会的・心理的サポート等を行っております。

「入院費用について困っている」「介護保険について知りたい」等、悩んでいること・困っていることがございましたら、お気軽に相談員までご相談ください。

また、ご希望がございましたらプライバシーに配慮し、必要に応じて個室の準備も致します。

受付時間

月曜～土曜の8:30～17:30まで
※年末年始・祝日除く

